

令和7年度 井野まちづくりセンターの主な取組

事業名

いの シニア食堂

P

●事業実施に至った背景、目的

高齢化が顕著な井野地区では独居の方も多く、家で一人食事をされている現状がある。みんなで食事をする場を提供することにより、地域での繋がりが生まれ、集い話すことがフレイル予防となり、健康寿命の延伸につながる。独居家庭や高齢者に限らず、従来の百歳体操教室の開催日に合わせ、井野地域住民なら誰でも参加できるサロンと食事を兼ねた、集いとふれあいの場として「いのシニア食堂」を隔月で開催することにした。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打合せ等)

発案は民生児童委員井野地区部会からの提案で、まちづくり推進委員会 INO 福祉部会、井野地域福祉推進協議会と連携して地域住民への声掛け、調理スタッフへの協力要請など行っ

D

●事業の概要

井野まちづくりセンターで毎月第3火曜日に開催している既存事業「百歳体操」に合わせることで、百歳体操への参加者増も視野に入れ、偶数月の第3火曜日に開催を決め、令和6年8月にお試し会を行い、その後隔月に開催。調理スタッフは元板前さんの経歴を持つ方を中心に、福祉委員やまちづくり福祉部会委員、百歳体操講師などがボランティアで協力。参加者は令和6年8月から令和7年12月まで9回開催で述べ285人が参加、一回平均32人の利用があった。参加者からは「一人で食べるより美味しい」「食事をしながらの皆さんとのおしゃべりが楽しい」「毎回、楽しみにしている」など、参加者が定着してきた。

C

●事業実施後の振り返り

- 今までセンター事業に参加されていない方の参加がみられ、地域で誘い合わせての参加など新しいつながりが出来た。
- 地域の方から食材提供や配膳の手伝いなど協力態勢が整いつつある。
- 調理スタッフが百歳体操やレクリエーションに毎回参加出来ていない。
- 参加費を200円としているが妥当か。

A

●今後の方向性

- * 今後も偶数月での開催を続け、センター便りや掲示板での広報により、新しい参加者を増やす働き掛けを行う。
- * シニア食堂への参加が社会参加につながるように「来て良かった・また来たい」という場の提供づくりを行う。
- * シニア食堂の開催と異なる奇数月の百歳体操や他事業の参加につなげたい。

